札幌市役所本庁舎あり方検討会（第１回）

議事要録

■日時　令和６年１０月２２日（火）午後６時～午後７時５０分
■場所　札幌市役所本庁舎　１２階４・５号会議室
■出席　石橋達勇委員、宇田川真之委員（WEB 参加）、宇野二朗委員、伏木進委員、森太郎委員
事務局（山内部長他）
コンサルタント（株式会社日建設計）、傍聴者１１名、記者３名
■欠席
■配布資料　1.議事次第
2.座席表
3.札幌市役所本庁舎あり方検討会 委員名簿
4.札幌市役所本庁舎あり方検討会 設置要綱
5.第１回検討会資料

1. 開会

2. 委員紹介、事務局紹介、座長選任

・**事務局**　委員の紹介と事務局の紹介
・**座長選任**　座長の選出に当たって森委員から石橋委員を座長に推薦する意見があった。これを受けて事務局が石橋委員を座長とする案を提案し、全会一致で了承された。
・**石橋座長**　札幌市の市街地が生まれ変わっている中で、本庁舎が今後どのようにあるべきか、委員の皆様と議論していきたい。

3. 第１回検討会資料について

・事務局より第１回検討会資料について説明。

4. 意見交換

・**石橋座長**　資料 P.13 の現庁舎の課題項目整理内容について、緊急性の観点で整理されているが、この項目に対して重視すべき視点や追加していく項目があるかどうかが今日の議論の中心と考えている。
・**宇田川委員**　耐震性は指摘の通り。防災性についても指摘の通りであるが、特に防災拠点機能についてはスペースの確保が課題である。最近の被災地では、外部からの応援が入ることが多いが、本庁舎の 12 階まで上がってもらうのは非常に大変であり、応援に来た方のスペースの確保も重要である。スペースの広さ、利便性といった視点も重視する必要があると考える。
・**危機管理局**　現状、外部からの応援機関のために準備できるスペースはなく、空いている会議室などを適宜使用してもらうことを想定している。12 階は各機関の窓口になる人が集まるための最小限のスペースしかなく、大人数が待機することは難しいため、他のフロアと 12 階の行き来が発生してしまう状況である。また、シャワー室や仮眠室等支援設備もなく、24 時間寝泊まりしながら業務を継続するための設備等は整っていない。

・**宇田川委員**　かつては災害が発生した場合、消防・自衛隊が被災地の支援を行うことが一般的であったが、熊本地震以降、災害対策基本法が改正され、消防・自衛隊に加え、避難所や廃棄物関連の支援をする他自治体職員が応援に駆け付けるようになり、大人数の支援者が加わることが一般化した。そのため、他市庁舎では、災害時にもエレベーターを使わずに移動できる低層部に市の災害対策本部を設け、本部の周辺には支援者の駐在する場所としても活用でき、通常時は会議室となる諸室を配置している事例もある。昨今の国の防災対応の変化に併せて、庁舎も整えていければ良いと考える。

・**石橋座長**　違う視点から如何か。

・**森委員**　環境対応について述べさせていただく。メインの CO2 排出の要因と想定される冷暖房のエネルギー消費量のデータに加え、現状の各諸室の照度、夏季・冬季の室内の温熱環境への対応の仕方、関連する BEMS のデータ等をご提供いただきたい。また、オフィスの人口密度が高いとの指摘があるが、オフィスの DX 化が面積には大きく影響すると考える。現在の DX の取り組みについて伺いたい。

・**事務局**　竣工当初は、窓が開かない仕様であったが空調も十分に効いていた記憶である。その後、環境配慮のため省エネを行うようになった頃から暑くて耐えられなくなり、平成 15 年頃から窓を開けられるように改修を行い、現在の庁舎に至る。本エリア一帯は地域熱供給（地域冷暖房システム）を導入しており、CO 2 排出の減少に努めてはいるが、それも限界があると感じている。どうしても一般的な冷暖房システムに頼らざるを得ないかもしれない。次回は、現状の執務環境について皆様にご説明できるようにしたい。また、竣工当時は照明のラインと机の配置ラインが同じになるように設計されていたが、現状それ以上に机が配置されている諸室があり、当初想定の照度を維持できていないものと思われる。照度については定量的なデータなどがあれば情報提供する。DX 化については、デジタル局を配置し業務効率化に向け検討を進めているため、次回具体の取組を紹介したい。

・**宇野委員**　庁舎は時代の変化に左右されることなく、その機能を果たすべきであり、求められる機能としては三つあると考える。一つ目は、防災の観点から、ゆとりのあるスペースを確保するということ。二つ目は、地方自治の観点から、市役所は市民のための空間であり、利用しやすい空間整備が重要だということに加えて、市全体で不足している機能を今後の庁舎に追加するなど、まちづくり全体としての庁舎の役割を検討すること。三つ目は、人材確保の観点から、働き方改革の実施や職場環境・執務環境の整備を行うことである。上記の点に取り組む場合、財政とのバランスを取ることも重要。そのため、建替えのように初期コストが高くてもランニングコストを抑えるのか、改修を実施し途中で再度投資を行うのかというような、ライフサイクルコストの視点を取り入れながら検討を進めていくと良いと考える。

・**事務局**　スペースにゆとりを持ちたいが、既に人員増加に伴い外部庁舎が増えているため、更なる場所の確保が難しい状況である。どの程度スペースに余裕を持つべきかについては、今後考えていく必要がある。また、土日は閑散としており、市役所周辺に賑わいがないのは事実であり、市役所の敷地やその周辺もうまく活用していくべきと考える。

人材確保の観点からは、優れた人材に入ってもらうためにも、職場環境の整備については検討を進めたい。財政に関しては庁内でも議論しており、改修の場合は初期コストを抑えることができるものの、その後何年建物を利用できるかが課題となる。次回以降はライフサイクルコストも含めて検討していきたい。

・**宇野委員**　状況について理解した。職員数については、今後も増加することを想定すると現時点の費用だけでなく、将来的な負担全体についても考慮できればと思う。
・**石橋座長**　今回の検討会は本庁舎のあり方に関するものであるが、まちづくりなどの広い視野に立った観点で補足すべき点はあるか。
・**事務局**　市役所は象徴的な場所に位置しているため、まちづくりの観点も重要である。一方、建替えか改修か、整備手法等によって市役所のまちづくりへの関わり方が異なってくる。そのため、まずは庁舎建物の整備手法を決定し、その後にまちづくりの議論を進めたいと考える。
・**石橋座長**　改修の場合は、長寿命化改修となり機能の維持に加え、機能向上も図る必要があると考える。長寿命化改修と改築ではランニングコストにどれほどの差があるのか、将来を見越したコストについても検討すべきと考える。
・**森委員**　最近では、ZEB 改修や居ながら改修など様々な手法がある。新築と改修を比較しどちらがランニングコストを低く抑えられるかに加え、最新の手法を用いた場合の比較も検討いただきたい。
・**事務局**　多様な改修方法については、次回以降、検討を進めたい。
・**伏木委員**　本庁舎の維持管理の視点から意見を述べさせていただく。本庁舎は設備の老朽化が進行し、供給停止の部品も増加している。特に、排水管の破損による漏水などの給排水設備のトラブルが多発しており、直近 3 年間で 300 件以上のトラブル対応が行われている。また、基幹設備において更新時期を超えているもの、竣工以来更新されていないものがあり、不具合の原因になっている。現状を踏まえ、優先度、緊急性、コストなど総合的に比較しながら、事後保守に頼るのではなく、予防保全と計画的な設備更新を行っていく必要があると考える。
・**石橋座長**　更新時期を超過している設備について、具体的な例はあるか。
・**事務局**　事業継続上、止めることができない給排水の配管などは竣工以来一度も更新されていない。現状先送りをしている設備更新についても、限界を迎えている状況。
・**石橋座長**　P13「現庁舎の課題項目整理」の一覧について、緊急性が基準として挙げられているが、それ以外に重要度を測る別の基準の可能性についても考慮したい。新しい行政施設の在り方を考える際に「将来性」という視点も重要ではないか。
・**森委員**　整備手法を決定した時点から、解体時の CO2 排出量も考慮した上での、ライフサイクル CO2 やライフサイクルコストを指標として入れるのはいかがか。「4.環境対応」の区分に追加するイメージである。
・**宇野委員** 緊急性の横に「将来性」の列を追加することで、より適切な判断ができるのではないかと考える。
・**森委員**　オフィスの DX 化や働き方の多様性についての項目を追加するのはいかがか。市の職員がリモートワークやフレキシブルな働き方ができるなど、お考えの将来像を伺いたい。
・**石橋座長**　森委員の話を聞き、「狭あい度」の記載を書き換える、もしくは、「市民利用」の項目に「市民が気軽に利用できる」という観点を加えるとよいのではないかと考えたがいかがか。
・**事務局**　フリーアドレスを導入すれば面積は削減できるが、まだ新しい働き方の具体的なイメージが固まっておらず、提示が難しい状況である。ただ、仮置きでも良いので将来の働き方をイメージすることが重要と考えている。
・**宇野委員**　この建物を評価する際、DX や GX に対応できているか、市民が利用しやすいかといった視点については、他都市の庁舎や民間ビルとの比較で判断すればよいのではないかと考

える。

・**石橋座長**　DX や GX に関しては、ソフト面での順応ができていないとの話があったが、あえてハードから先に整備することで順応できるという視点もあるのではと考える。そのため、キーワードとして DX や GX 化を追記しても良いのではないかと考える。

・**事務局**　将来を見越して考慮しなければならない項目を入れた方が良いという観点についてはご指摘の通りのため、今後検討を進めたい。

・**宇田川委員**　項目としては特に違和感はない。札幌市としてリモートワークや DX といった内容について推進していることなどがあれば、その内容も記載した方がよいと思った。

・**伏木委員**　市役所は民間と違い市民サービスという観点が重要であり、職員の働き方への影響が大きいと考えている。「狭あい度」の項目に働き方の視点を取り入れていくのが良いかと考える。

・**宇野委員**　働き方にとって良いか悪いか、市民のアクセスしやすさ、そして将来的な課題への対応という観点でまとめるのが良いのではないかと考える。

・**石橋座長**　一旦 P13 についてまとめると、緊急性以外にも、将来性や利用者目線での評価軸（例: 利便性など）を 1～2 つ追加することが良いのではないか。また、環境に関してはライフサイクルコストの視点を加えるのはいかがか。将来性に関わる項目として、DX や GX、働き方に関する項目を加筆する必要があると考える。

・**伏木委員**　ライフサイクルコストは環境エネルギーの観点に加え、既存庁舎を改修して使用する場合も重要であると考える。

・**宇野委員**　ライフサイクルコストの議論は次のフェーズで行う話と考える。

・**森委員**　現庁舎の項目整理においてライフサイクルコストを項目に入れるのは難しいかもしれないが、次回以降にて比較方法の一つとして取り上げるのが適切であると考える。また、庁舎として建物を何年使用する想定かについても確認したい。

・**石橋座長**　建替えか改修かに加え、具体的な建物グレードによって耐用年数も変化するため、長期的視点も含めつつ検討を進めていくことになるのではと考える。また、次回の展望について事務局はどのようにお考えか。

・**事務局**　課題に対してどの程度対応できるのかを建替えと改修でそれぞれ整理し、将来性の観点を加えた上で検討していく。整備手法が決まってから議論すべき内容もあるかと思うので、事務局で方針整理を行う。

・**宇田川委員**　全ての要望に対応するのは難しいと思うので、札幌市の総合計画などの既存の計画を活用することも有効と考える。

5. 閉会

・**事務局**　次回の会議は 12 月下旬から 1 月頃を予定している。

～午後 7 時 50 分　閉会～

以上